

手話や点訳など
児童が福祉体験

【桂川町】町ボランティア連絡協議会は7月24日、8月28日、夏休み中の児童に手話などを体験してもらおう事業を実施しました。町社会福祉協議会との共催で、期間中に町学童保育所の子どもなど延べ254人が参加しました。

2009年から実施しており今年で6回目。今回は



協議会に所属する手話や点訳など八つのボランティア団体が指導しました。

桂川手話の会は手話を使ったじゃんけんゲームを紹介。会員が「聴覚障害者は見た目だけでは分からない。困っているように感じたら、積極的に声を掛けてあげてね」と呼び掛ける。子どもたちは教室中に響き渡る大きな声で返事をしていました。写真。

(右田よう子リポーター)

わが町通信

夏休みの児童が
手話や工芸体験

【桂川町】町ボランティア連絡協議会は7月23日、8月28日、桂川学童保育所で夏休み中の児童に手話や点字、工芸などを体験してもらいました。町社会福祉協議会との共催。7回目の今年は、延べ326人の子どもたちが参加してくれました。

最終日は、手芸ボランティア「手作りの会」の11人



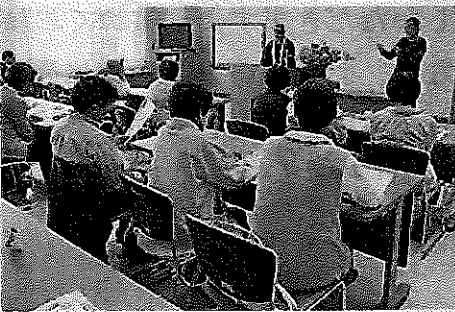
が、45人の子どもたちに折り紙を教え、写真、作った手裏剣で忍者を倒すゲームを楽しみました。折り紙のカフトムシをプレゼントされた児童はうれしそうに、いろんな角度から眺めていました。

(西尾真由美リポーター)

わが町通信

町ボランティア協
熊本地震で義援金

【桂川町】11団体の約300人でつくる町ボランティア連絡協議会は5月上旬、町内であった商工会まつりで熊本地震への義援金7万2251円を集め、熊本、大分両県に送りました。



中旬には総会を開き、「こがえる寺」として知られる正法寺(飯塚市)の原田性亮住職の講話を聞きまし写真。(金丸公美リポーター)